


太宰府市男女共同参画社会づくりに向けての市民意識調査
報 告 書



— ダイジェスト版 —

太 宰 府 市

調査の概要

この調査は、「太宰府市男女共同参画プラン（平成 14 年度策定）」の見直しを行うにあたり、市民の皆さまの男女共同参画に関する意識と実態をお伺いしたものです。

この調査結果は、「第 2 次太宰府市男女共同参画プラン（平成 25 年 5 月策定）」策定の基礎資料として使用したほか、今後太宰府市において男女共同参画施策をさらに進めるために活用していきます。

このダイジェスト版では、調査結果の一部を紹介しています。

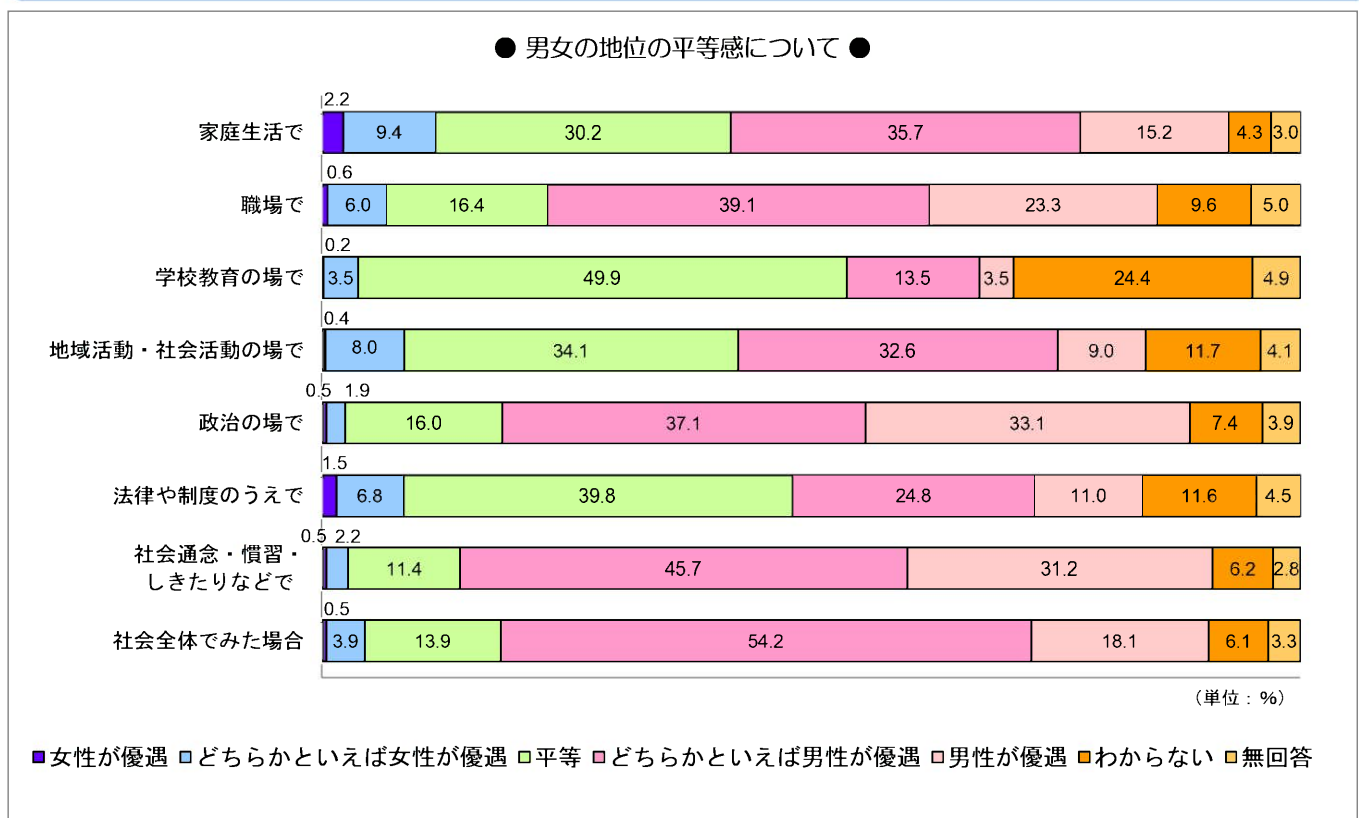
- ◆ 実施年月日 平成 24 年 7 月 20 日～ 8 月 6 日
- ◆ 調査対象 無作為抽出した太宰府市在住 20 歳以上の男女計 2,000 人
- ◆ 回答人数 821 人（男性 357 人、女性 452 人、無回答 12 人）
- ◆ 回収率 41.1%

※調査結果のグラフに特にサンプル数の標記がない場合は、上記の回答人数がサンプル数となります。

調査の結果から

1 男女平等について

- 次の 8 分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか？
⇒まだ、「男性が優遇されている」と考えられています。



「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた『男性が優遇されている』と回答した割合が半分を超えるものが、8 分野中 5 分野となっていて、男女の平等感にはいまだ差があると言えます。

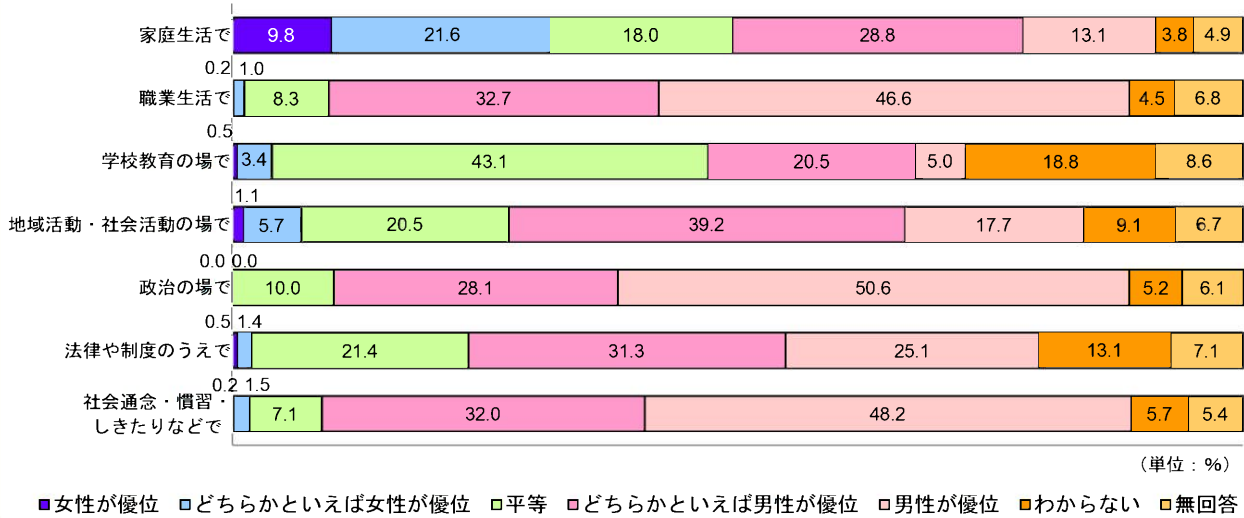
その意識は特に「社会通念・慣習・しきたりなどで」、「社会全体でみた場合」、「政治の場で」の順に高くなっています。

反対に「学校教育の場で」、「法律や制度のうえで」のように、「平等」と回答した人の割合が高く、男女の地位に差がないと感じられている分野も存在しています。

◆◆◆ 平成 13 年度市民意識調査結果との比較 ◆◆◆

* 男女の地位の平等感について (H13年度) *

(n=1248)



平成 13 年度太宰府市男女共同参画社会づくりに向けての市民意識調査より (※平成 13 年度調査には「社会全体でみた場合」の調査項目なし)

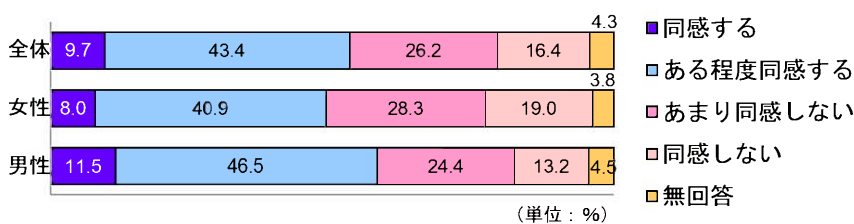
平成 13 年度と同調査と比較すると、今回調査では全ての項目において「平等」と回答した人の割合が増加しています。一方「男性が優遇（優位）」との回答はほとんどの項目で減少していて、「どちらかといえば男性が優遇（優位）」との回答に増加がみられ、同じ『男性優遇』でも“どちらかといえば”にシフトしています。

この 11 年間で男女平等に向けて法律や制度の整備が進むと同時に、人々の意識も高まり、男女平等がだんだんと定着してきていることがうかがえます。

● 「男は仕事、女は家庭」という考え方にどの程度同感しますか？

⇒ 「同感する」と「ある程度同感する」を合わせた『同感派』が過半数です。

● 「男は仕事、女は家庭」という考え方について ●

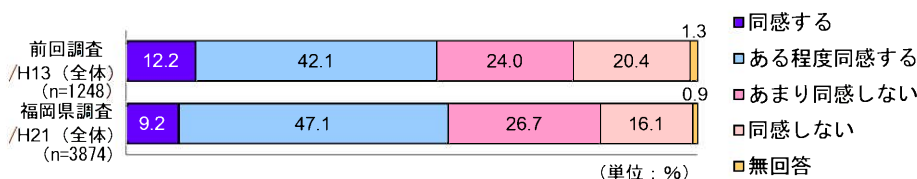


全体では、「同感する」と「ある程度同感する」を合わせた『同感する』と回答した人は 53.1%で過半数となっています。

性別で見ると、『同感する』と回答した女性が 48.9%であるのに対し男性は 58.0%で、特に男性側にこの意識が強いことが分かります。

◆◆◆ 平成 13 年度市民意識調査・平成 21 年度福岡県民意識調査結果との比較 ◆◆◆

* 「男は仕事、女は家庭」という考え方について (H13・21年度) *

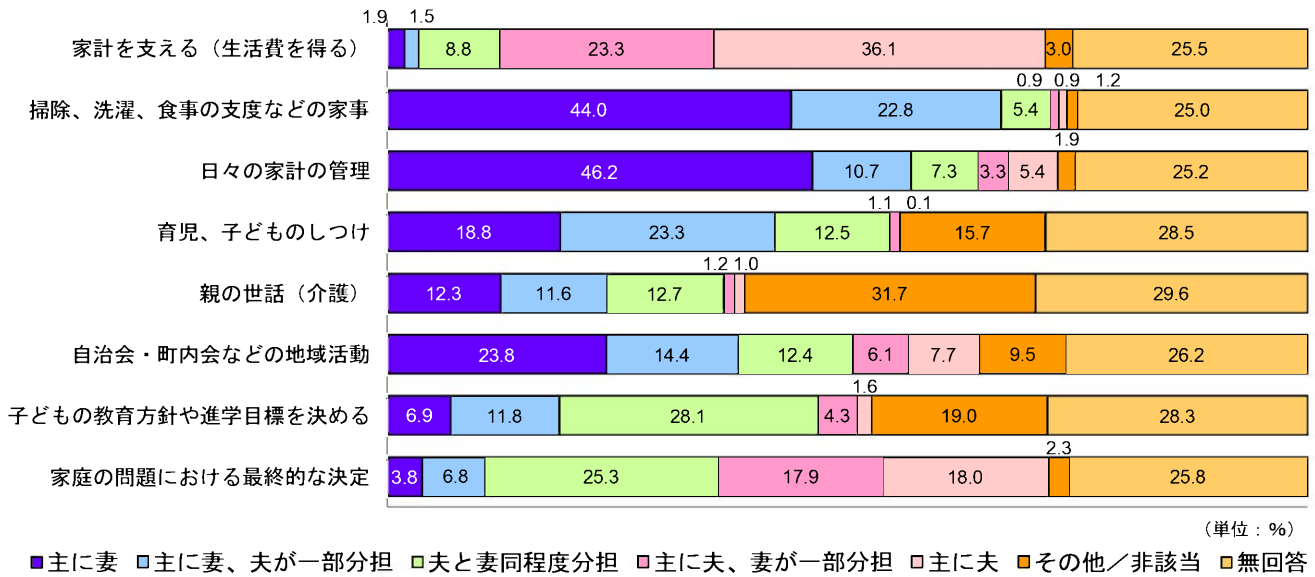


平成 13 年度太宰府市男女共同参画社会づくりに向けての市民意識調査及び平成 21 年度福岡県男女共同社会に向けての意識調査より

同感派（「同感する」・「ある程度同感する」と回答した人）は、平成 13 年度調査では 54.3%、県調査では 56.3%で、いずれも過半数となっていて、今回調査（53.1%）と同じ傾向にあります。

●あなたの家庭では、次にあげる家庭内の仕事を、主にどなたがしていますか？
⇒「家計を支えるのは夫、家事や日々の家計の管理は妻」が主流。

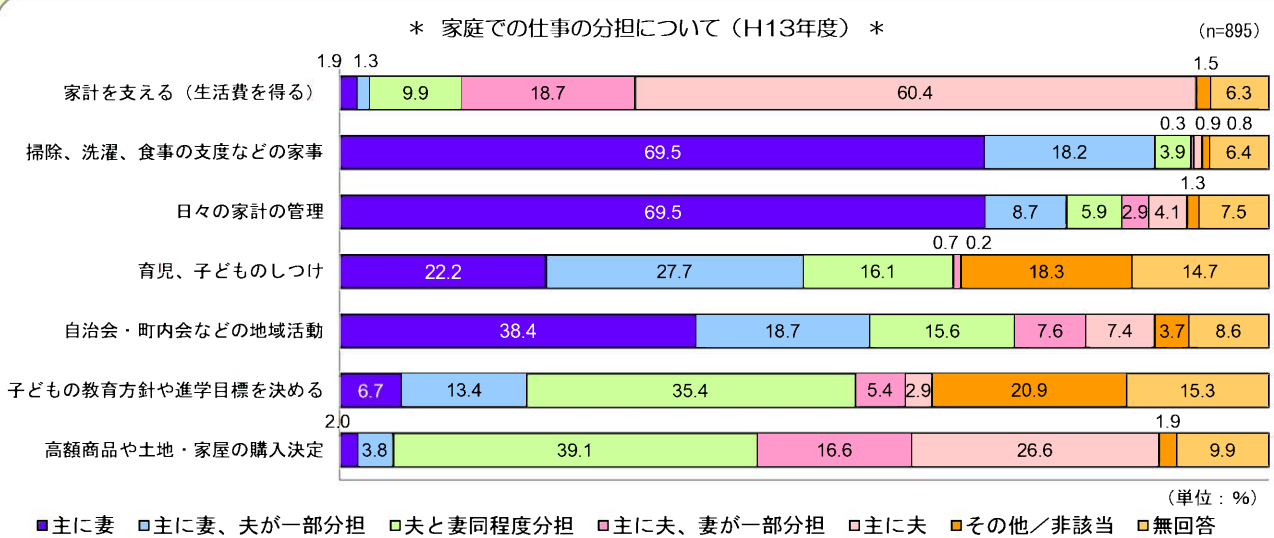
● 家庭での仕事の分担について ●



「主に妻が行っている」ことで特に多いものは「日々の家計の管理」、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」で、「主に夫が行っている」ことで特に多いものは「家計を支える（生活費を得る）」となっています。

「夫と妻が同程度分担している」との回答が多い、「子どもの教育方針や進学目標を決める」、「家庭の問題における最終的な決定」のように、夫婦で一緒に関わっているものも見られます。

◆◆◆ 平成 13 年度市民意識調査結果との比較 ◆◆◆

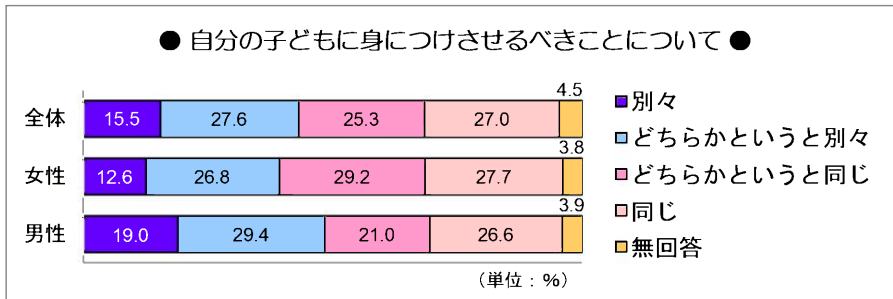


平成 13 年度太宰府市男女共同参画社会づくりに向けての市民意識調査より（※平成 13 年度調査には「親の世話」の調査項目なし）

平成 13 年度調査結果では、「家計を支える（生活費を得る）」、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」、「日々の家計の管理」をはじめ、夫か妻のどちらか一方に偏っていたものが、今回の調査ではその偏りが少なくなっています。このことから、家庭での仕事が全体的に夫婦で分担して行われるようになっていることが分かります。

2 子どもについて

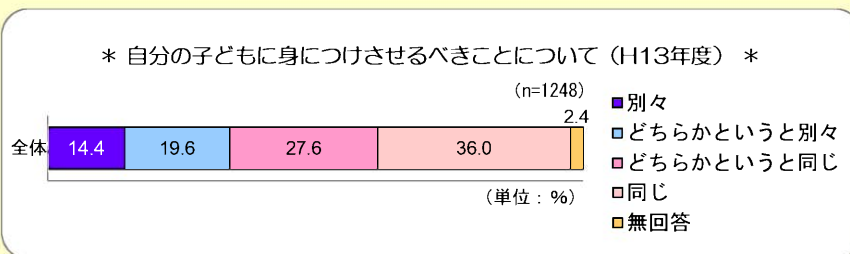
●自分の子どもに身につけさせたいことを、女の子と男の子とで別々に考えていますか？
⇒「男女同じに考えている」が過半数。



全体では『別々に考えている』（「別々」・「どちらかというと別々」）と回答した人が 43.1%、『同じに考えている』（「どちらかというと同じ」・「同じ」）と回答した人が 52.3%と、男女差にこだわらない子育て観を持つ人が半数を超えています。

性別ごとでは『別々に考えている』とした人が、男性 48.4%、女性 39.4%と男性に多くなっています。

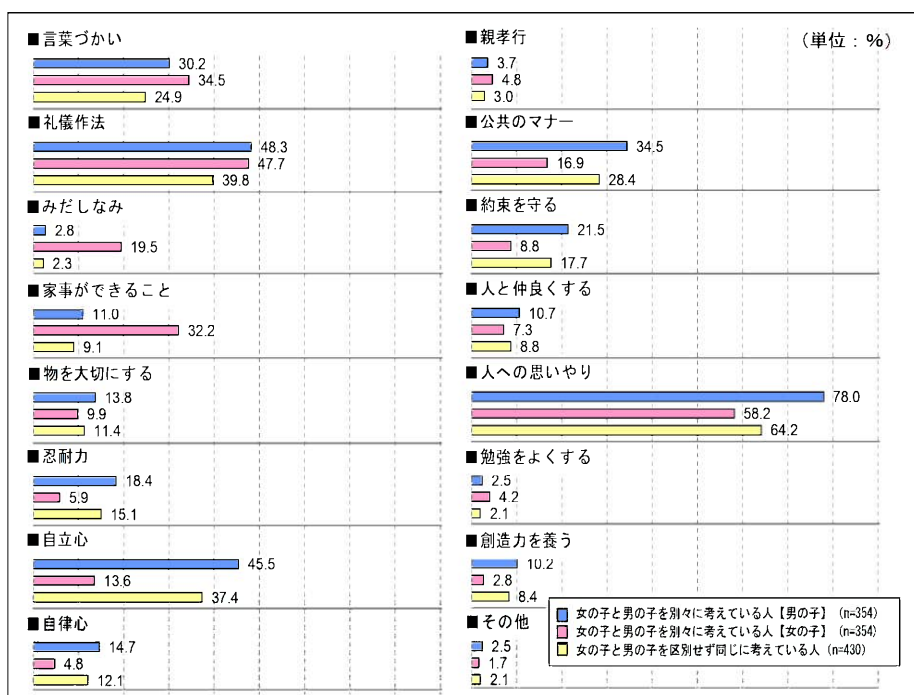
◆◆◆ 平成 13 年度市民意識調査結果との比較 ◆◆◆



平成 13 年度調査結果（全体）では、『別々に考えている』と回答した人が 34.0%（今回 43.1%）、『同じに考えている』と回答した人が 63.6%（今回 52.3%）で、今回調査では子どもには男女で別のことを身につけて欲しいと考える人の割合が増えています。

平成 13 年度太宰府市男女共同参画社会づくりに向けての市民意識調査より

●自分の子どもにどのようなことを身につけさせることが大切だと思いますか？【〇は3つまで】
⇒共通して大切なのは「人への思いやり」。



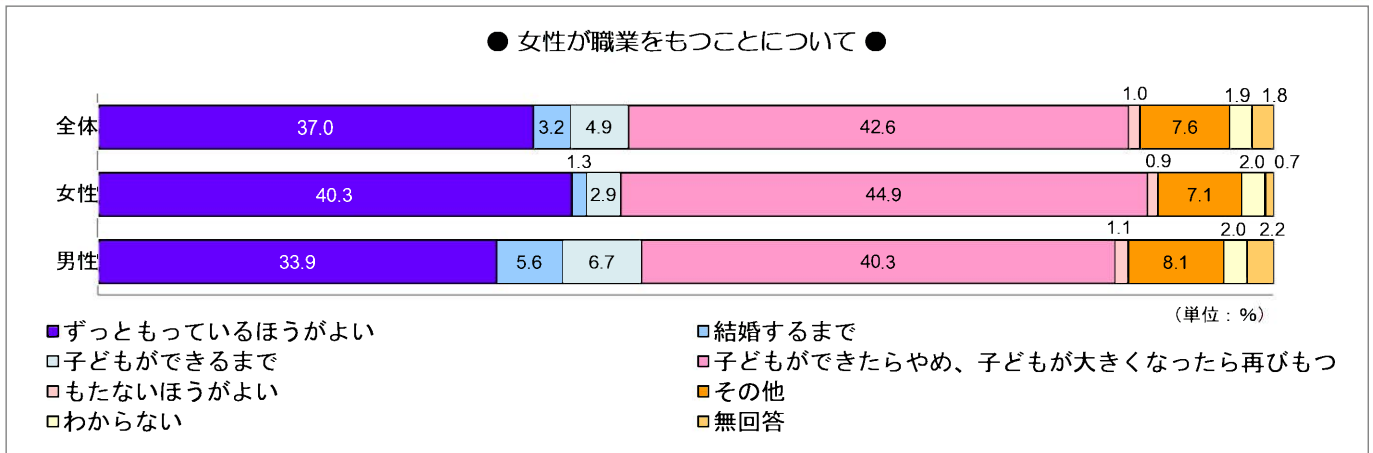
子どもに身につけさせたい大切なことを、男の子と女の子を『別々に考えている人』と『同じに考えている人』に分けて回答してもらいました。

共通して回答が多かったのは、「人への思いやり」、「礼儀作法」となっています。また、『別々に考えている』場合、男の子には「自立心」、「公共のマナー」、女の子には「家事ができること」、「みだしなみ」との回答が多く、男の子と女の子で大切だと思うものに差があることが分かります。

『同じに考えている』場合の回答は、男の子に身につけさせたいことと類似した傾向となっています。

3 職業について

●「女性が職業をもつこと」について、考えに近いものを選んでください。
 ⇒4割強が「子どもができたら一旦やめて、大きくなったら再就職」と回答。

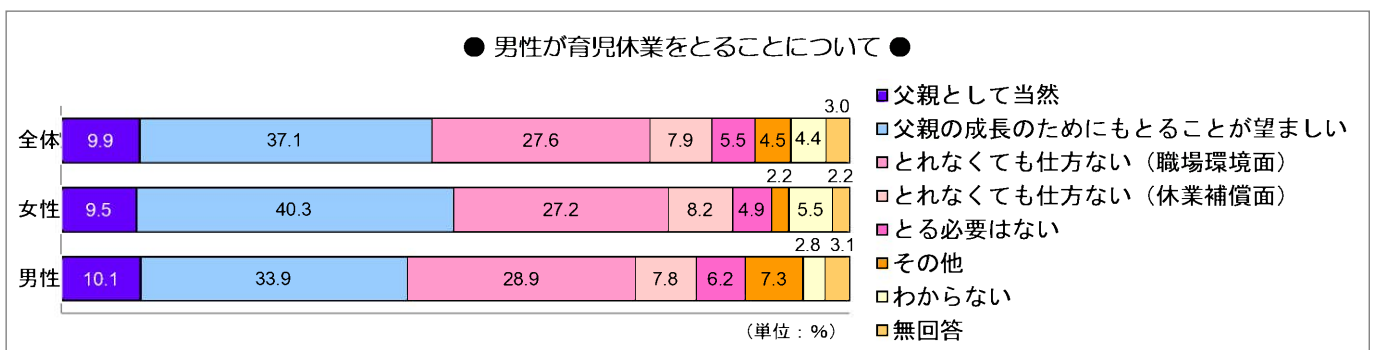


「子どもができたらやめ、子どもが大きくなったら再びもつ」との回答が全体 42.6%、女性 44.9%、男性 40.3% といずれも一番多くなっている、女性が育児に専念できる環境に身を置いて子育てをし、子育てがひと段落してから再び職業をもつというスタイルが、一定数の男女に望まれていることがうかがえます。

また、男女別の内訳において、「ずっともっているほうがよい」と答えた人は女性 40.3%、男性 33.9% となっていて、女性のほうに自ら職業をもち続けることの有効性を感じている人が多くなっています。

他に男女の回答に差がみられる部分として、「結婚するまで」、「子どもができるまで」と回答した人は、男性のほうが女性よりそれぞれ 4 ポイント程度高くなっていて、結婚や出産などのライフイベントをきっかけに仕事をやめるのがよいという考えは、男性のほうに多いことが分かります。

●男性が育児休業を取ることに、どう思いますか？
 ⇒半数程度の人が、男性の育児休業取得に肯定意見を持っています。



男女ともに「父親自身の成長のためにもとることが望ましい」との回答が一番多くなっていますが、次に多いのは、「とれなくても仕方ない（職場環境面）」との回答になっています。

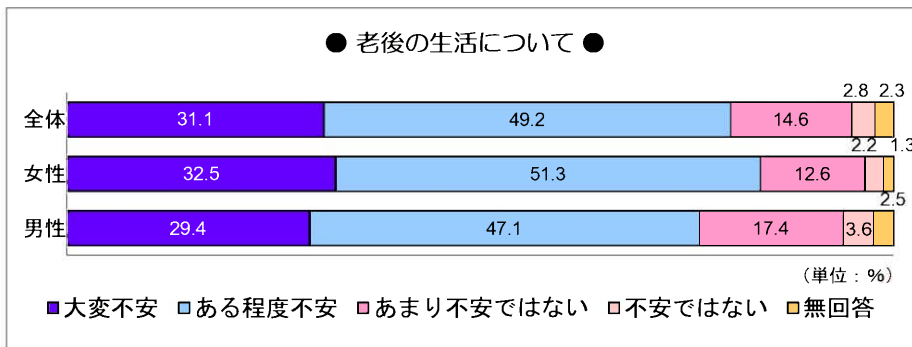
男性の育児休業取得への肯定意見（「父親として当然」・「父親の成長のためにもとることが望ましい」）は、全体で 47% となっているものの、実際の取得となると難しい状況がうかがえます。

☆育児休業は1歳未満の子どもを養育するために男女とも取得できます。
 ☆男性の育児休業取得率は、厚生労働省の調査においても、1.89%（平成24年度）と低い状態にあり、これを引き上げるため、政府目標では「平成32年までに13%」と設定されています。

4 介護について

● 老後の生活についてどう思っていますか？

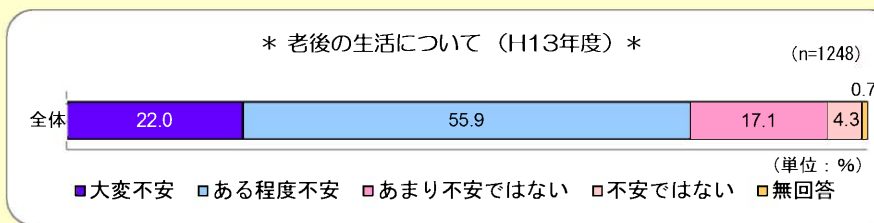
→全体の8割ほどが老後に不安を感じている。



「大変不安」と「ある程度不安」を合わせた、『不安に思っている』と回答した人は女性 83.8%、男性 76.5%と、女性のほうにやや多くなっています。

全体では、80.3%と大多数の人が老後の生活に何らかの不安を感じていることが分かります。

◆◆◆ 平成13年度市民意識調査結果との比較 ◆◆◆



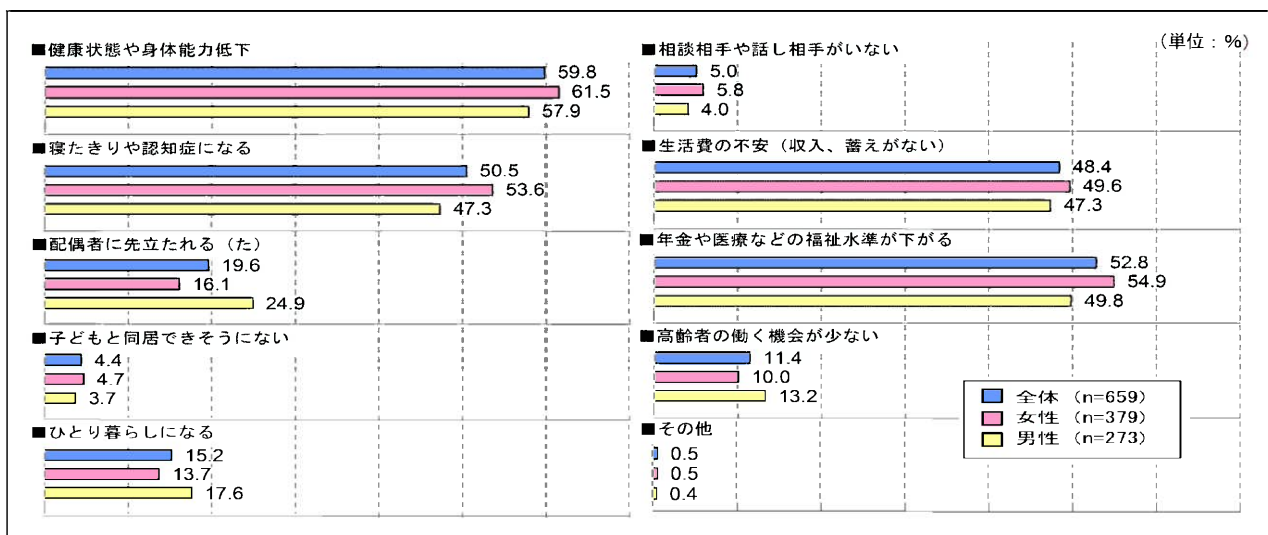
平成13年度太宰府市男女共同参画社会づくりに向けての市民意識調査より

平成13年度調査結果(全体)では、「大変不安」と回答した人が22.0% (今回31.1%)、「ある程度不安」と回答した人が55.9% (今回49.2%)で、老後への不安感はより強いものになっていることが考えられます。

〈 前の質問で「大変不安」・「ある程度不安」と答えた方について 〉

● 自分の老後、特にどのようなことに不安を感じますか？【〇は3つまで】

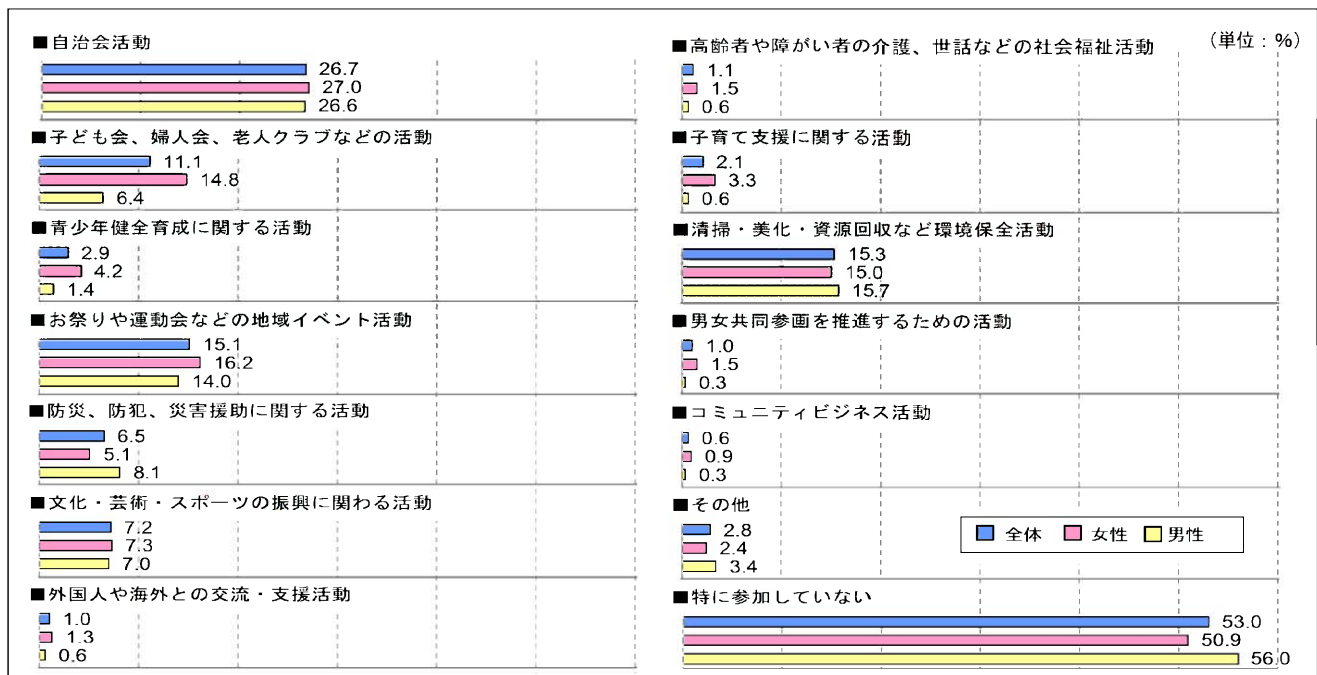
→自分の体の状態と、年金や医療などの福祉水準の低下が特に心配。



一番多くの回答を得たのは「健康状態や身体機能低下」で、以下、回答が多い順に「年金や医療などの福祉水準が下がる」、「寝たきりや認知症になる」、「生活費の不安 (収入、蓄えがない)」と、男女問わず同じ内容に老後の不安を感じていることが分かります。なお、男女間の意識に一番差が見られるものとしては「配偶者に先立たれる (た)」で、女性よりも男性が8.8ポイント多くなっています。

5 地域活動への参加について

●地域社会において、どのような活動に参加していますか？【〇はいくつでも】
⇒過半数の人が、地域の活動に参加していない。

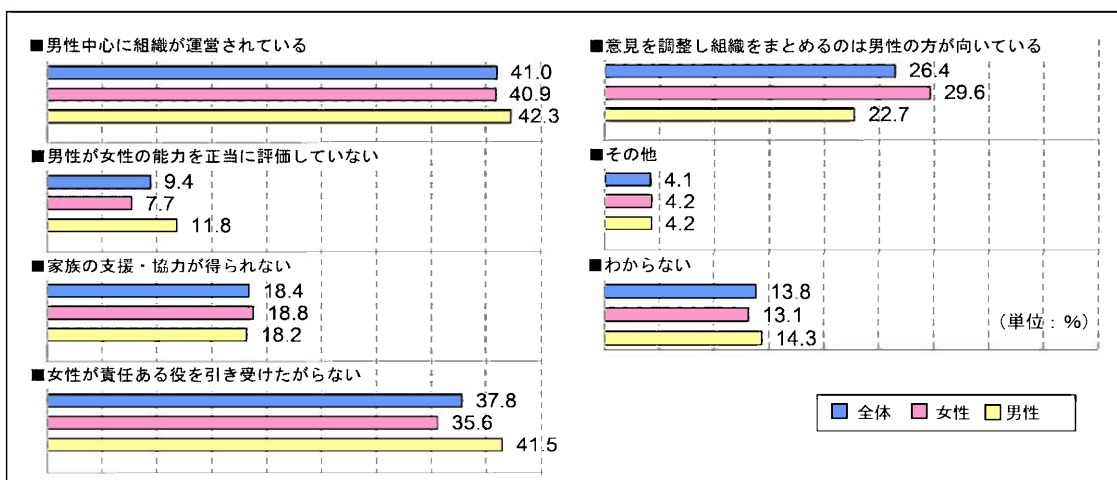


「特に参加していない」と回答した人が男女ともに一番多く、それぞれ割合は半数を超えていることから、地域において積極的に活動をしている人は少なく、それによる地域の中の人間関係の希薄化が推察されます。

参加している人の内容を見ると、「自治会活動」や「清掃・美化・資源回収など環境保全活動」、「お祭りや運動会などの地域イベント活動」などへの参加が多くなっています。

男女別の特徴としては、「特に参加していない」と回答した人が、女性よりも男性に5.1ポイント多く、地域社会への男性の参加がやや少ない状況がみられるほか、「子ども会、婦人会、老人クラブなどの活動」に参加していると回答した人が、女性よりも男性に8.4ポイント少なくなっています。

●町内会や自治会の長などの役職に女性が少ない理由は何だと思いますか？【〇は2つまで】
⇒「男性中心に組織が運営されている」と「女性が責任ある役を引き受けがらない」の2点に。

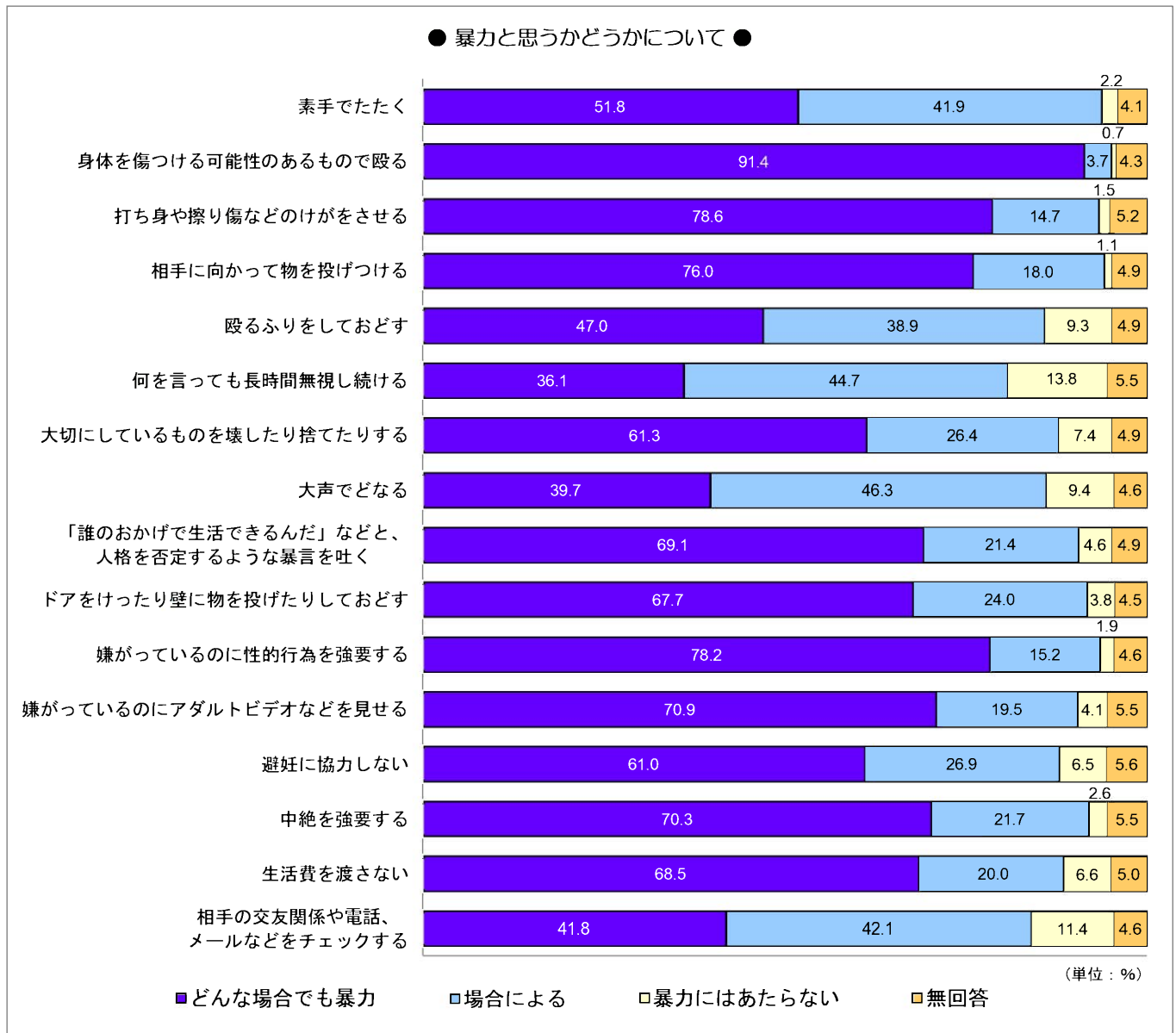


男女とも「男性中心に組織が運営されている」との回答が一番多くなっていますが、2番目に多い「女性が責任ある役を引き受けがらない」では男性のほうが5.9ポイント高く、3番目に多い「意見を調整し組織をまとめるのは男性の方が向いている」では女性のほうが6.9ポイント高くなっていて、男女間の意識の差が見られます。

6 人権について

● 次のことが夫婦や交際相手の間で行われた場合、暴力だと思いますか？
⇒ 身体に対して行われる暴力以外は、暴力として認識されないことも多い。

※ 「夫婦」には婚姻届を出していない事実婚や別居中を含む



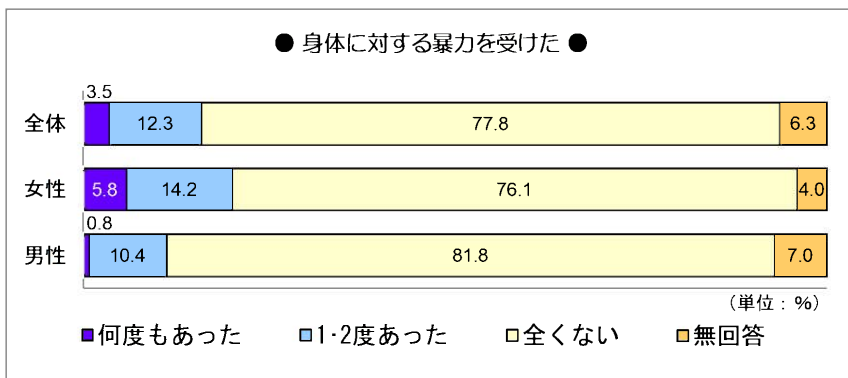
多くの項目が「どんな場合でも暴力」との回答で、暴力として認識されているものの、「何を言っても長時間無視し続ける」、「大声でどなる」、「相手の交友関係や電話、メールなどをチェックする」については、「どんな場合でも暴力」との回答を「場合による」との回答が上回っているうえ、「暴力にはあたらない」との回答割合も比較的高くなっています。「何を言っても長時間無視し続ける」や「大声でどなる」などは、身体的な暴力と比較して、暴力であることが認識されていない傾向が見られます。

☆夫婦や交際相手などの間で行われる暴力をDV（ドメスティック・バイオレンス）といい、加害者は相手も自分の思い通りにコントロールしようとして、その手段に様々な暴力を用います。

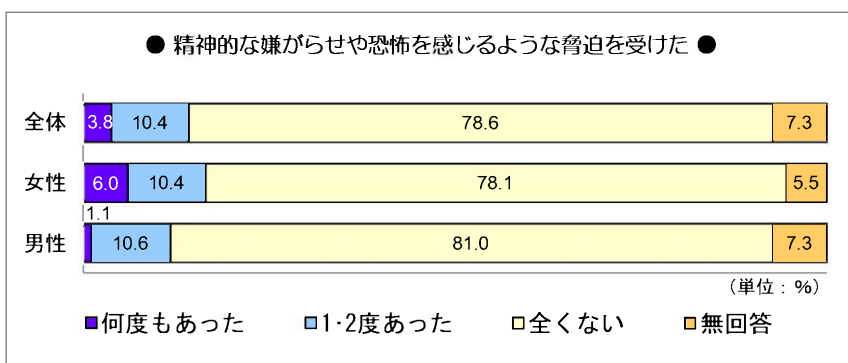
☆DVの中でも、特に交際中の相手から受ける暴力を「デートDV」と呼んでいます。

☆DVには、身体的暴力だけでなく、精神的暴力、経済的暴力、経済的暴力、性的暴力も含まれます。

● 次のことを、これまでに配偶者や交際相手から経験したことがありますか？
 ⇒ 身体的暴力を受けたことがあるのは、女性は5人に1人、男性は10人に1人。



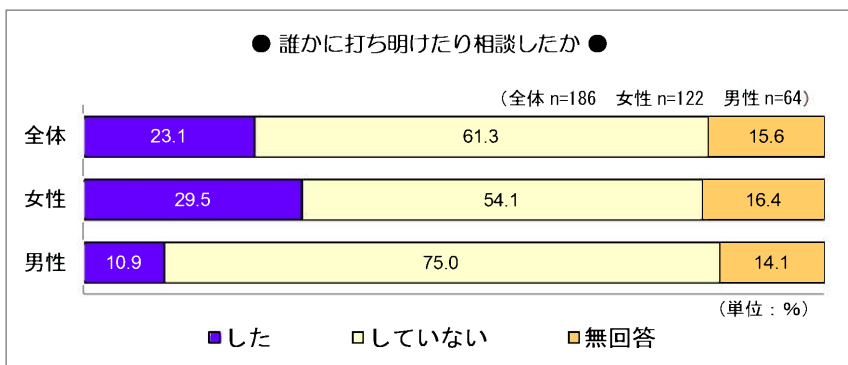
殴ったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの「身体に対する暴力を受けた」との質問については、女性の20% (5人に1人)、男性の11.2% (10人に1人)が『あった』(「何度もあった」・「1・2度あった」と回答しています。



人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの「精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた」との質問については、女性の16.4% (6人に1人)、男性の11.7% (10人に1人)が『あった』(「何度もあった」・「1・2度あった」と回答しています。

〈 前の質問で「何どもあった」・「1・2度あった」と答えた方について 〉

● そのような行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか？
 ⇒ 相談していない人が多いうえ、男性は女性に比べ誰にも相談しない人が多い。



女性の54.1%、男性の75%が誰にも相談していないと回答しました。

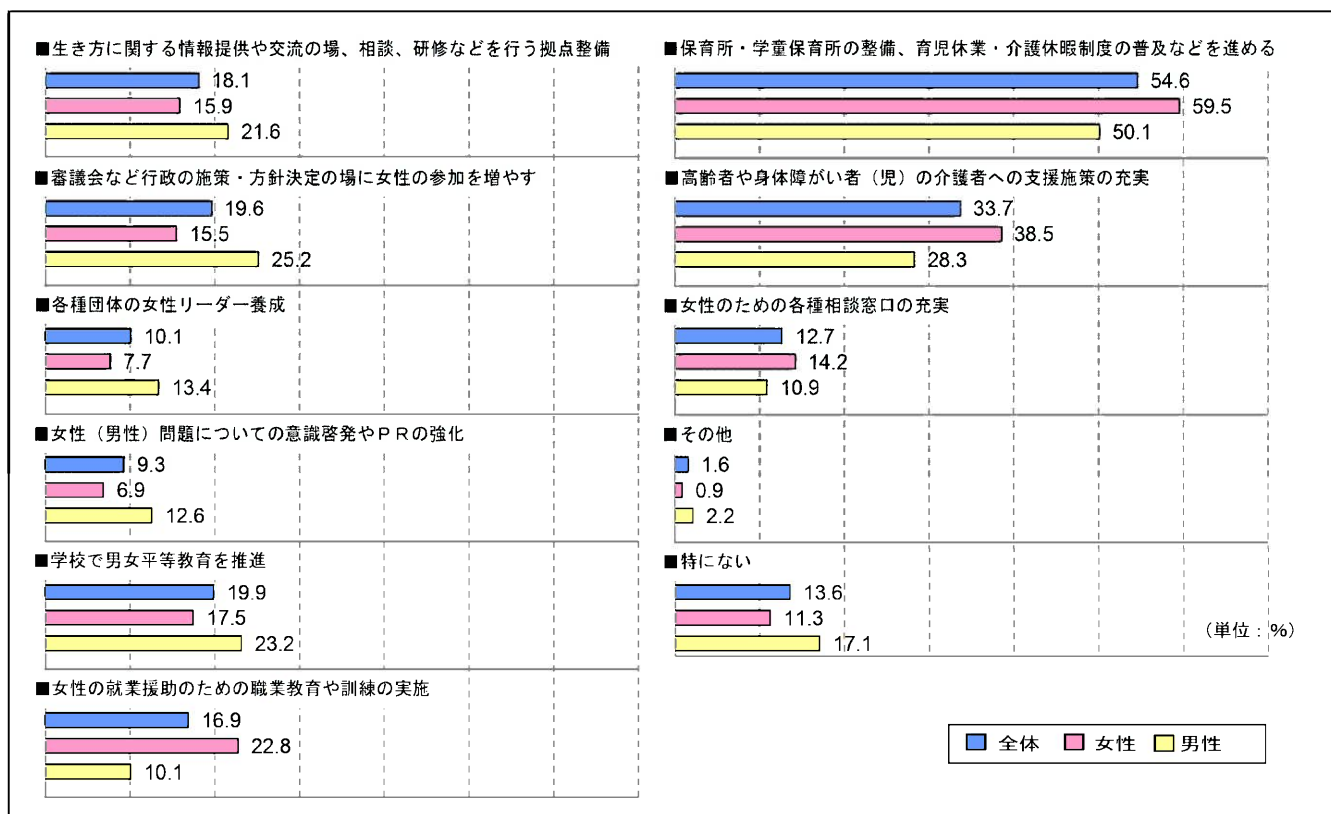
暴力を受けたことがあっても相談していない人が多いこと、また、男性のほうが相談しない割合が高いことが分かります。

☆ DVは家庭の中などの閉ざされた場所で行われるため、表面化しにくいというえ、継続化しやすく、エスカレートしていく傾向が見られます。

☆ DV被害者は、DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)で支援、保護されます。相談窓口は、市や県で設置しています。身体に危険が及ぶような緊急の場合は、警察への通報も必要です。

7 男女共同参画施策について

●あなたは、太宰府市で男女共同参画を進めるために、市に対してどのような施策を望みますか？【〇は3つまで】
⇒育児、介護への支援が望まれています。



全体の54.6%が「保育所・学童保育所の整備、育児休業・介護休暇制度の普及などを進める」と回答しました。次に多いのが「高齢者や身体障がい者（児）の介護者への支援施策の充実」となっていて、負担が大きい育児や介護への支援や対応策が多く求められていることが分かります。

男女間で差が見られるものとして、女性の回答で3番目に多かったのが、「女性の就業援助のための職業教育や訓練の実施」であるのに対し、男性の3番目には「審議会など行政の施策・方針決定の場に女性の参加を増やす」が入っている点です。

女性の社会進出の促進や、男女が社会でそれぞれの役割を担い、社会の一員として活躍するため、そのサポート体制を整備していくことが求められており、これは男女共同参画社会の実現のために大変重要な課題となっています。

発行 平成 26 年 6 月

太宰府市 人権政策課 男女共同参画推進係

〒818-0198 太宰府市観世音寺1丁目1番1号

TEL 092-921-2121 (内線 542)